

新しい生産技術の導入による いちごの生産額向上

活動期間：令和元年～令和3年
対 象：蔵王地区いちご部会 13戸



背景

みやぎ園芸特産振興戦略プラン（R3～R7）

園芸の産出額

H30	R7（目標）
333億円	500億円

いちごの産出額

H30	R7（目標）
56億円	93億円

仙南圏域園芸特産振興戦略プラン（R3～R7）

いちごの産出額

H30	R7（目標）
1.95億円	2.81億円



いちごは重要品目となっており、産出額の向上が求められる

目標

対象：葦王いちご部会

平成14年 部会員 23名

JA共販金額 96,720 千円

平成27年 部会員 13名（現部会員）

JA共販金額 67,760 千円（H27～H30 平均）

部会員の減少と高齢化（現在の平均年齢 66歳）に伴い、産出額が減少



1. 新技術の導入による生産性の向上
2. 高齢化する産地の維持発展

数値目標	H30	R1	R2	R3
JA共販金額	67,000 千円	75,000 千円	85,000 千円	1 億円

取り組み内容（新技術の導入による生産性の向上）

先進的施設の建設や設備の
導入により生産性向上



管内では土耕栽培が中心、高齢化



産地の現状に応じた
機器整備や技術導入
・低コスト
・技術の簡略化

取り組み内容（新技術の導入による生産性の向上）

導入技術の例



簡易な測定器で施設内環境を
数値で把握

反射式ストーブでも
十分効果ある



適切なCO₂施用・温湿度管理



白マルチで光合成を促進

取り組み内容（高齢化する産地の維持発展）

産地の維持発展 → 省力化・軽労化



不耕起栽培

栽培終了後、畝を崩さず使うことで、
重労働のほ場準備や畝上げ作業を省力化する

全員で取り組み



天敵カブリダニによるハダニ防除

2人取り組み



UV-Bライトによる
うどんこ病防除

(事業により導入)

課題の成果（R1～R3）

JA共販金額	H30	R1	R2	R3
目標		75,000 千円	→ 85,000 千円	→ 1 億円
実績	67,000 千円	87,000 千円	→ 87,000 千円	→ 85,236 千円

- 収穫後半（4～5月）の価格の低迷
- 5月の高温による過熟果の発生 → 例年より早めに収穫終了
- 近年、量販店や直売所への直接販売も行われている

量販店や直売所への直接販売を含めると、

R3栽培の売り上げは約90,000 千円（H30比 134%）

課題の成果（R1～R3）

◆ 環境制御技術の取り組み拡大と技術レベルの向上

- ・ 簡易的な機器を活用した環境制御による収量向上技術の支援
- ・ 事業の活用による機器（光合成促進器 など）導入の支援

◆ 省力化・軽労化技術（不耕起栽培・天敵製剤 など）の定着

各農家の状況に応じた技術の取り組みに対して、
部会全体の指導と並行して個別にも指導



部会全体で施設内環境と植物生理に基づいた
栽培技術への取り組みが進んだことで、産出額が向上した



今後の活動

- 産出額のさらなる増大に向けた栽培技術のレベル向上と定着
 - 巡回による個別指導
 - 現地検討会・講習会 など
- 省力化・軽労化技術の定着
- 周辺地域への普及・拡大
- 高設ベンチの生産者に対する栽培技術の支援
 - 蔵王町や丸森町では高設ベンチを導入した農家が増えている